

平成12年(2000年)6月16日(金曜日)

第9084号(日刊)



発行所
世界日報社
 東京都渋谷区宇田川町12番9号
 郵便番号 150-8345
 電話(03)3476-3411
 FAX(03)3496-5738
 郵便振替口座 00170-6-40860
 ©世界日報社 2000

「共存共栄で徐々に統一へ」

金大中大統領が到着声明

【ソウル15日武田滋樹】

韓国の金大中大統領は十五日午後、二泊三日の平壤滞在日程を終えて、専用機でソウル近郊の京畿道城南市にあるソウル空港に帰国した。金大統領は空港での歓迎式で到着声明を発表し、「(首脳会談では)これ以上、赤化統一も吸収統一もダメで、南北が互いに共存

共栄しながら、徐々に統一に向かう道を進もう。二十世紀に世界一流の韓半島にしよう」と力説し、(金総書記も)共感を示した。これ以上、戦争はない」と会談の成果を発表した。

金大統領はしかし、「今野で全面的に行おうというのが、金総書記との合意だ」と語った。

「言いたいことをすべて話す」ため準備した書面を金総書記の前で読んだことを紹介しながら、「核の話も、ミサイルの話もした。在韓米軍問題も出たし、国家保安法問題も出た。対話は非常に有意義だったし、いい展望を発見することもあった」と会談の雰囲気伝えた。その上で、南北共

同宣言の項目ごとに説明を加えた。

金大統領は特に「南北の統一論の共通性を認定し、この方向で統一を指向させていく」という第二項について、北朝鮮は中央政府が外交権と軍統帥権を持つという連邦制統一案を、「低い段階の連邦制という名前

で、中央政府が持つべきだった外交と軍事権をもたず、地方政府(現在の南北政府を意味する)がそのままとっていい」と修正したと指摘。これは、「南北の統一論争史上で、(南北が)具体的な合意点を見いだすための画期的な契機になる」と評価した。

離散家族問題と長期服役中の共産主義者問題の解決を併記した第三項については、「あくまでも離散家族の問題が主体だということ

で、金総書記と合意した」と表明。今月から北朝鮮と赤十字会談をはじめ、「相対的な規模で」再会が始まるという展望を示した。

第四項目の経済協力では、北朝鮮の経済難が出発点だが、結局は相互利益になると強調。特に、鉄道を